

地域の同質性と異質性

私は、近世史（おもに江戸時代）を専門としています。市史編さんでは政治史の視点から、当市域の変遷を考えていきたいと思います。

さて江戸時代、常陸大宮市域はすべて水戸藩領でした。大子町や常陸太田市、那珂市、日立市、東海村、ひたちなか市なども同様です。ところが、水戸市には旧内原町域に旗本領があり、同じ茨城県などにも旗本領や幕府領があります。図1に見るように、水戸藩領は、ほとんどが水戸以北にまとまっていた。

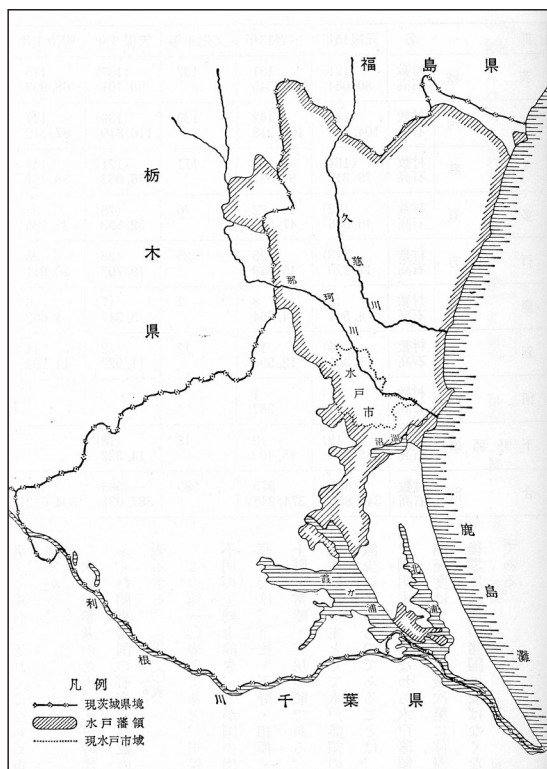


図1 水戸藩領図(『水戸市史 中巻(一)』から)

江戸時代の関東地方は、水戸藩が35万石と圧倒的な石高を有していますが、実は大部分は譜代大名や旗本といった将軍家臣の「補給地」となっています。茨城県域全体について幕末時点の石高でみると、もっとも多いのは水戸藩領ではなく旗本領(31万石余)です。幕府直轄領とあわせると約44万石となり、県域全体をあわせた石高のおよそ4割が幕府関係の領地で占められていました。

なお、水戸藩領は一部が栃木県(現那珂川町)にあるため県内の石高は29万石で、4分の1弱の割合になります。



永井 博
茨城県立歴史館 史料学芸部長
市史編さん専門調査員(近世史部会)

つまり、県北以外の地域は、同一市町村で江戸時代の領主が複数というのが普通なのです。なかにはつくば市や石岡市のように、市域の領主が50人以上にわたっている場合もあります。このような地域では同じ村(ほぼ現在の大字単位)でも、集落ごとに領主が異なることも珍しくはありませんでした。

こうしたことからみると、当市を含めた県北地域は例外的であることがわかります。しかも佐竹氏時代も含めると、同一領主の期間が長期にわたっており、そこで培われた「同質性」は、良くも悪くも現代の県北地域、そして当市域を考えていくうえでも見逃せない視点であると思います。また、反対にそうしたなかで見いだされる「異質性」は、地域の特色を考える視点となるでしょう。



図2 那珂郡図(茨城県立歴史館所蔵)

探しています！

古文書・古写真・古い石塔・昔話・珍しい動植物などは、本市の歴史を調査する重要な手がかりです。お心当たりがありましたら、ぜひご一報ください。

問い合わせ

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎ 52-1111 (内線 344)